

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年2月13日
【四半期会計期間】	第157期第3四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）
【会社名】	日本板硝子株式会社
【英訳名】	Nippon Sheet Glass Company, Limited
【代表者の役職氏名】	取締役代表執行役社長兼CEO 森 重樹
【本店の所在の場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【電話番号】	03-5443-9523
【事務連絡者氏名】	経理部 宮田 昌大
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【電話番号】	03-5443-9523
【事務連絡者氏名】	経理部 宮田 昌大
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第156期 第3四半期連結 累計期間	第157期 第3四半期連結 累計期間	第156期
会計期間	自 2021年 4月1日 至 2021年 12月31日	自 2022年 4月1日 至 2022年 12月31日	自 2021年 4月1日 至 2022年 3月31日
売上高 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	442,961 (152,274)	566,225 (190,574)	600,568
税引前四半期利益又は税引前利益 (は損失) (第3四半期連結会計期間) (百万円)	15,440 (713)	26,808 (7,735)	11,859
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)利益(は損失) (第3四半期連結会計期間) (百万円)	8,633 (35)	37,160 (1,656)	4,134
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)包括利益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	31,615 (9,136)	43,745 (43,658)	77,367
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	97,190	109,649	145,291
総資産額 (百万円)	858,843	945,649	939,281
親会社所有者帰属持分比率 (%)	11.3	11.6	15.5
親会社の所有者に帰属する基本的1株 当たり四半期(当期)利益 (は損失) (第3四半期連結会計期間) (円)	78.98 (5.04)	425.22 (12.81)	24.07
親会社の所有者に帰属する希薄化後1 株当たり四半期(当期)利益 (は損失) (第3四半期連結会計期間) (円)	60.78 (5.04)	425.22 (11.65)	23.92
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	21,140	8,342	45,061
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	20,086	29,748	22,787
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	11,959	12,844	20,823
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	44,568	52,793	60,015

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成された四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいています。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、第2四半期連結会計期間において、中国における自動車用ガラス事業の子会社であるGuilin Pilkington Safety Glass Co., Ltd.ほか1社を当社グループの持分法適用会社であるSYP Kangqiao Autoglass Co., Limitedに譲渡しています。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している以下の主要なリスクが発生しております。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(のれん及び無形資産の減損損失について)

当社グループは、前事業年度の有価証券報告書で開示した事業等のリスクの分析のうち、「貸借対照表に計上された資産の評価及び減損等」に関するリスクについて、割引率の増加に伴う減損損失の発生リスクの高まりを認識しています。当社グループは、第2四半期連結会計期間において、2006年のビルキントン社買収に伴って発生した欧州における自動車用ガラス事業ののれん及び無形資産残高488億円全額について減損損失を計上しました。当社グループは、引き続き同事業の中期的な見込みは堅調と見ていますが、主に減損テストで使用する割引率が大幅に上昇した結果、減損損失を認識しました。詳細については、第4経理の状況(5)要約四半期連結財務諸表注記(d)重要な会計上の見積り、判断及び仮定、(f)個別開示項目を参照ください。

なお、当社グループが将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は、当第3四半期連結累計期間においては存在していません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。全ての財務数値は、国際会計基準(IFRS)ベースで記載しています。

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間における売上高は、建築用ガラス事業及び自動車用ガラス事業での売上高増加に伴い、前年同期比28%増の5,662億円(前年同期は4,430億円)となりました。為替の影響を除く売上高は前年同期比20%増でした。個別開示項目前営業利益は242億円(前年同期は145億円)でした。個別開示項目は439億円の費用(純額)でしたが、これは2006年のビルキントン社買収に伴って発生した欧州における自動車用ガラス事業ののれん及び無形資産残高488億円全額について減損損失を第2四半期に計上したためです。個別開示項目の詳細については第4経理の状況(5)要約四半期連結財務諸表注記(f)個別開示項目をご確認ください。法人所得税の80億円(前年同期は49億円)は通期の見積実効税率に基づき計算していますが、個別に重要な項目については適切に調整しています。多額の個別開示項目費用を計上した結果、親会社の所有者に帰属する四半期損失は372億円(前年同期は86億円の利益)となりました。

当社グループの事業は、建築用ガラス事業、自動車用ガラス事業、高機能ガラス事業の3種類のコア製品分野からなっています。

「建築用ガラス事業」は、建築材料市場向けの板ガラス製品及び内装外装用加工ガラス製品を製造・販売しており、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高のうち49%を占めています。太陽電池パネル用ガラス事業も、ここに含まれます。

「自動車用ガラス事業」は、新車組立用及び補修用市場向けに種々のガラス製品を製造・販売しており、当社グループの売上高のうち46%を占めています。

「高機能ガラス事業」は、当社グループの売上高のうち5%を占めており、ディスプレイのカバーガラスなどに用いられる薄板ガラス、プリンター向けレンズ及び光ガイドの製造・販売、並びにエンジン用タイミングベルト部材などのガラス繊維製品の製造・販売など、いくつかの事業からなっています。

「その他」には、全社費用、連結調整、前述の各セグメントに含まれない小規模な事業、並びにビルキントン社買収に伴い認識された無形資産の償却費が含まれています。

セグメント別の業績概要は下表の通りです。

(単位：百万円)

	売上高		個別開示項目前営業利益(は損失)	
	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間
建築用ガラス事業	275,688	206,863	26,192	20,406
自動車用ガラス事業	258,424	203,295	1,117	5,925
高機能ガラス事業	29,775	30,773	7,233	7,782
その他	2,338	2,030	8,153	7,739
合計	566,225	442,961	24,155	14,524

#### 建築用ガラス事業

当第3四半期連結累計期間における建築用ガラス事業の売上高は2,757億円(前年同期は2,069億円)、個別開示項目前営業利益は262億円(前年同期は204億円)となりました。販売価格の改善及び円安の影響を受け、売上高・個別開示項目前営業利益ともに前年同期から増加しました。

欧州における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の43%を占めています。売上高は、販売価格の上昇と為替影響の結果、大幅に増加しました。個別開示項目前営業利益も、高騰した燃料費に関連した投入コストの大部分を販売価格の改善により吸収し、増加しました。当第3四半期では燃料費は通常の水準に戻る兆しを見せましたが、インフレの進行と金利上昇により企業の景況感や消費者マインドが悪化し、販売数量はやや減少しました。

アジアにおける建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の27%を占めています。売上高・個別開示項目前営業利益ともに前年同期を上回りました。投入コスト上昇の影響は、販売数量増と安定した操業により軽減しました。

米州における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の30%を占めています。売上高・個別開示項目前営業利益ともに前年同期比で増加しました。北米では、需要は好調だった一方で上半期は販売数量が物流の制約の影響を多少受けましたが、当第3四半期中にはその制約も緩和されました。また、当第3四半期からアルゼンチンで2基目のフロート窯が生産を開始しました。

#### 自動車用ガラス事業

当第3四半期連結累計期間における自動車用ガラス事業の売上高は2,584億円(前年同期は2,033億円)、営業損失は11億円(前年同期は59億円の損失)となりましたが、当第3四半期は前年度第1四半期以来の個別開示項目前営業利益を計上しました。販売数量は引き続き徐々に増加するとともに取引先に対する販売価格上昇も合意に達し、高騰した投入コストを軽減しました。

欧州における自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の42%を占めています。売上高は増加しましたが、一部為替の影響によるものもあります。販売数量は自動車メーカーにおける半導体等部品不足の影響を受けましたが、当第3四半期中も引き続き徐々に緩和しました。収益性は引き続き投入コスト上昇の影響を受けましたが、第2四半期から当第3四半期にかけて多くの取引先との価格交渉が進捗し、販売価格が改善したため、さらにその影響を軽減しました。補修用市場向けの販売数量は好調でした。

アジアにおける自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の19%を占めています。売上高は前年同期比で増加しましたが、これは投入コスト上昇の影響を緩和するために取引先との価格改善交渉を進めた結果です。収益性は前年とほぼ同水準でした。

米州における自動車用ガラス事業の売上高はグループ全体における当事業売上高の39%を占めています。売上高は為替の影響を受けて前年同期比で増加しましたが、個別開示項目前営業利益は減少しました。北米での需要は、自動車メーカーによる在庫の積み増しの影響を受け好調でしたが、多くの取引先で引き続きサプライチェーンの問題の影響を受けました。南米での需要は比較的堅調で、アルゼンチンでは販売数量が改善しました。

#### 高機能ガラス事業

当第3四半期連結累計期間における高機能ガラス事業の売上高は298億円(前年同期は308億円)、営業利益は72億円(前年同期は78億円)となりました。売上高・営業利益は前年にバッテリーセパレーター事業を譲渡したためわずかに減少しました。バッテリーセパレーター事業譲渡による売上高・営業利益への影響は、好調な市場環境により概ね相殺されていますが、当第3四半期は引き続き中国での新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴うロックダウンの影響を受けました。

ファインガラス事業では、景気減速の影響を一部受けましたが、継続的なコスト削減による事業基盤の強化により、業績は引き続き安定していました。情報通信デバイス事業では、半導体等部品不足の影響から徐々に回復したため売上高は安定していましたが、プリンター用レンズの需要は北米や欧州でのインフレの影響によりわずかに減少しました。エンジンのタイミングベルト用グラスコードの潜在的な需要自体は安定しているものの、販売数量は取引先におけるサプライチェーンの問題による影響を受けました。メタシャイン®の売上高は、自動車塗料及び化粧品向けでわずかに減少しました。

#### 持分法適用会社

持分法で会計処理される投資に係る利益には、持分法による投資利益及び持分法投資に関するその他の損失が含まれています。当第3四半期連結累計期間においては、純額で43億円（前年同期は56億円）となり前年同期を下回りましたが、これは主にブラジルの建築用ガラスの持分法適用会社であるCebrace社の利益が減少したことによるものです。

前連結会計年度において、投資の一部に対して減損損失を認識したことに伴い、当社グループは、当第3四半期連結累計期間におけるロシアのジョイント・ベンチャーに対する持分法による投資利益を即時減損していません。この減損損失は連結損益計算書では、持分法投資に関するその他の損失として表示しています。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、83億円のプラスとなりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による284億円の支出等により297億円のマイナスとなりました。以上より、フリー・キャッシュ・フローは214億円のマイナス（前年同期は11億円のプラス）となりました。

#### (3) 経営方針、経営戦略並びに事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略並びに事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更等はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について重要な変更はありません。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費は、68億円となりました。事業別の内訳は、建築用ガラス事業にて21億円、自動車用ガラス事業にて20億円、高機能ガラス事業にて7億円、その他において20億円となりました。

#### (5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

2022年12月末時点の総資産は9,456億円となり、2022年3月末時点から64億円増加しました。

当社グループの資本の源泉としては、事業活動からの営業キャッシュ・フロー、銀行からの借入金、リース契約、又は資本が挙げられます。2022年12月末現在、当社グループの総借入残高の構成割合は、銀行からの借入金92%、リース契約等が8%となっています。

当社グループは、最適な調達方法と調達期間の組み合わせにより、適切なコストで安定的に資金を確保することを、資金調達の基本方針としています。

2022年12月末時点のネット借入残高は、2022年3月末より543億円増加して4,195億円となりました。ネット借入の増加は、主に運転資本の増加と為替影響によるものです。為替影響によるネット借入の増加は116億円でした。運転資本の増加の影響を除いたキャッシュ・フローはプラスとなりました。また総借入残高は5,103億円となりました。当社グループは2022年12月31日時点で未使用の融資枠を263億円保有しており、これに加えて未引き出しのコミット型タームローンが160億円あります。

資本合計は1,388億円となり、2022年3月末時点の1,694億円から305億円減少しました。資本合計の減少は、主にのれん及び無形資産の減損損失の認識に伴うものですが、退職給付債務の減少、超インフレの調整によって一部相殺されました。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	177,500,000
A種種類株式	40,000
計	177,500,000

(注) 当社の各種類株式の発行可能種類株式総数の合計は177,540,000株であり、当社定款に定める発行可能株式総数177,500,000株を超過しますが、発行可能種類株式総数の合計が発行可能株式総数以下であることについては、会社法上要求されていません。

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数 (株)(注1) (2023年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	91,151,599	91,158,999	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株(注2)
A種種類株式	30,000	30,000	非上場	単元株式数 1株(注3)
計	91,181,599	91,188,999		

(注) 1. 提出日現在の発行数には、2023年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれていません。

2. 完全議決権株式であり、権利内容に特に限定のない当社における標準となる株式です。

3. A種種類株式の内容は以下の通りです。

##### 1. 剰余金の配当

###### (1) A種優先配当金

当社は、ある事業年度中に属する日を基準日として剰余金の配当をするときは、当該剰余金の配当の基準日(以下、「配当基準日」という。)の最終の株主名簿に記載又は記録されたA種種類株式を有する株主(以下、「A種種類株主」という。)又はA種種類株式の登録株式質権者(A種種類株主と併せて以下、「A種種類株主等」という。)に対し、下記9.(1)に定める支払順位に従い、A種種類株式1株につき、下記(2)に定める額の金銭による剰余金の配当(かかる配当によりA種種類株式1株当たりを支払われる金銭を、以下、「A種優先配当金」という。)を行う。なお、A種優先配当金に、各A種種類株主等が権利を有するA種種類株式の数を乗じた金額に1円未満の端数が生じるときは、当該端数は切り捨てる。

###### (2) A種優先配当金の金額

A種優先配当金の額は、配当基準日が2018年3月末日以前に終了する事業年度に属する場合、1,000,000円(以下、「払込金額相当額」という。)に、4.5%を乗じて算出した額の金銭について、配当基準日が2018年4月1日以降に開始し2020年3月末日以前に終了する事業年度に属する場合、払込金額相当額に、5.5%を乗じて算出した額の金銭について、配当基準日が2020年4月1日以降に開始する事業年度に属する場合、払込金額相当額に、6.5%を乗じて算出した額の金銭について、当該配当基準日の属する事業年度の初日(但し、当該配当基準日が2017年3月末日に終了する事業年度に属する場合は、2017年3月31日)(同日を含む。)から当該配当基準日(同日を含む。)までの期間の実日数(但し、当該配当基準日が2017年3月末日に終了する事業年度に属する場合、かかる実日数から1日を減算する。)につき、1年を365日(但し、当該事業年度に閏日を含む場合は366日)として日割計算を行うものとする(除算は最後に行い、円位未満小数第2位まで計算し、その小数第2位を四捨五入する。)。但し、当該配当基準日の属する事業年度中の、当該配当基準日より前の日を基準日としてA種種類株主等に対し剰余金を配当したときは、当該配当基準日に係るA種優先配当金の額は、その各配当におけるA種優先配当金の合計額を控除した金額とする。

###### (3) 非参加条項

当社は、A種種類株主等に対しては、A種優先配当金及びA種累積未払配当金相当額(下記(4)に定める。)の額を超えて剰余金の配当を行わない。但し、当社が行う吸収分割手続の中で行われる会社法第758条第8号口若しくは同法第760条第7号口に規定される剰余金の配当又は当社が行う新設分割手続の中で行われる同法第763条第1項第12号口若しくは同法第765条第1項第8号口に規定される剰余金の配当についてはこの限りではない。

#### (4) 累積条項

ある事業年度に属する日を基準日としてA種種類株主等に対して行われた1株当たりの剰余金の配当(当該事業年度より前の各事業年度に係るA種優先配当金につき本(4)に従い累積したA種累積未払配当金相当額(以下に定義される。)の配当を除く。)の総額が、当該事業年度に係るA種優先配当金の額(当該事業年度の末日を基準日とする剰余金の配当が行われると仮定した場合において、上記(2)に従い計算されるA種優先配当金の額をいう。但し、かかる計算においては、上記(2)但書の規定は適用されないものとして計算するものとする。)に達しないときは、その不足額は、当該事業年度(以下、本(4)において「不足事業年度」という。)の翌事業年度以降の事業年度に累積する。この場合の累積額は、不足事業年度に係る定時株主総会(以下、本(4)において「不足事業年度定時株主総会」という。)の翌日(同日を含む。)から累積額がA種種類株主等に対して配当される日(同日を含む。)までの間、不足事業年度の翌事業年度以降の各事業年度において、当該事業年度が2018年3月末日以前に終了する事業年度の場合は年率4.5%の利率で、当該事業年度が2018年4月1日以降に開始し2020年3月末日以前に終了する事業年度の場合は年率5.5%の利率で、当該事業年度が2020年4月1日以降に開始する事業年度の場合は年率6.5%の利率で、1年毎(但し、1年目は不足事業年度定時株主総会の翌日(同日を含む。)から不足事業年度の翌事業年度の末日(同日を含む。)までとする。)の複利計算により算出した金額を加算した金額とする。なお、当該計算は、1年を365日(但し、当該事業年度に閏日を含む場合は366日)とした日割計算により行うものとし、除算は最後に行い、円位未満小数第2位まで計算し、その小数第2位を四捨五入する。本(4)に従い累積する金額(以下、「A種累積未払配当金相当額」という。)については、下記9.(1)に定める支払順位に従い、A種種類株主等に対して配当する。

#### 2. 残余財産の分配

##### (1) 残余財産の分配

当社は、残余財産を分配するときは、A種種類株主等に対し、下記9.(2)に定める支払順位に従い、A種種類株式1株につき、払込金額相当額に、A種累積未払配当金相当額及び下記(3)に定める日割未払優先配当金額を加えた額(以下、「A種残余財産分配額」という。)の金銭を支払う。但し、本(1)においては、残余財産の分配が行われる日(以下、「分配日」という。)が配当基準日の翌日(同日を含む。)から当該配当基準日を基準日とした剰余金の配当が行われる時点までの間である場合は、当該配当基準日を基準日とする剰余金の配当は行われぬものとみなしてA種累積未払配当金相当額を計算する。なお、A種残余財産分配額に、各A種種類株主等が権利を有するA種種類株式の数を乗じた金額に1円未満の端数が生じるときは、当該端数は切り捨てる。

##### (2) 非参加条項

A種種類株主等に対しては、上記(1)のほか、残余財産の分配は行わない。

##### (3) 日割未払優先配当金額

A種種類株式1株当たりの日割未払優先配当金額は、分配日の属する事業年度において、分配日を基準日としてA種優先配当金の支払がなされたと仮定した場合に、上記1.(2)に従い計算されるA種優先配当金相当額とする(以下、A種種類株式1株当たりの日割未払優先配当金額を「日割未払優先配当金額」という。)

#### 3. 議決権

A種種類株主は、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会において議決権を有しない。

#### 4. 普通株式を対価とする取得請求権

##### (1) 普通株式対価取得請求権

A種種類株主は、2017年4月1日以降いつでも、当社に対して、下記(2)に定める数の普通株式(以下、「請求対象普通株式」という。)の交付と引換えに、その有するA種種類株式の全部又は一部を取得することを請求すること(以下、「普通株式対価取得請求」という。)ができるものとし、当社は、当該普通株式対価取得請求に係るA種種類株式を取得すると引換えに、法令の許容する範囲内において、請求対象普通株式を、当該A種種類株主に対して交付するものとする。

なお別途、A種種類株式発行にかかる引受契約書において、A種種類株主は、原則として2020年7月1日以降においてのみ普通株式対価取得請求ができるものと転換制限が付されていたが、転換制限解除事由の発生により、2020年5月22日以降、A種種類株主は当該取得請求権を行使することが可能となっている。

(2) A種種類株式の取得と引換えに交付する普通株式の数

A種種類株式の取得と引換えに交付する普通株式の数は、A種種類株式1株当たりの払込金額相当額に下記に定める普通株式対価取得プレミアムを乗じて得られる額に普通株式対価取得請求に係るA種種類株式の数を乗じて得られる額を、下記(3)及び(4)で定める取得価額で除して得られる数とする。また、普通株式対価取得請求に係るA種種類株式の取得と引換えに交付する普通株式の合計数に1株に満たない端数があるときは、これを切り捨てるものとし、この場合においては、会社法第167条第3項に定める金銭の交付は行わない。

「普通株式対価取得プレミアム」とは、普通株式対価取得請求の効力が生ずる日が以下の各号のいずれの期間に属するかの区分に応じて、以下の各号に定める数値をいう。

2017年4月1日から2017年6月30日まで	: 1.05
2017年7月1日から2018年6月30日まで	: 1.08
2018年7月1日から2019年6月30日まで	: 1.15
2019年7月1日から2020年6月30日まで	: 1.22
2020年7月1日から2021年6月30日まで	: 1.29
2021年7月1日から2022年6月30日まで	: 1.36
2022年7月1日以降	: 1.43

(3) 当初取得価額

846.5円

(4) 取得価額の調整

(a) 以下に掲げる事由が発生した場合には、それぞれ以下のとおり取得価額を調整する。

普通株式につき株式の分割又は株式無償割当てをする場合、次の算式により取得価額を調整する。

なお、株式無償割当ての場合には、次の算式における「分割前発行済普通株式数」は「無償割当て前発行済普通株式数（但し、その時点で当社が保有する普通株式を除く。）」、「分割後発行済普通株式数」は「無償割当て後発行済普通株式数（但し、その時点で当社が保有する普通株式を除く。）」とそれぞれ読み替える。

$$\text{調整後取得価額} = \text{調整前取得価額} \times \frac{\text{分割前発行済普通株式数}}{\text{分割後発行済普通株式数}}$$

調整後取得価額は、株式の分割に係る基準日の翌日又は株式無償割当ての効力が生ずる日（株式無償割当てに係る基準日を定めた場合は当該基準日の翌日）以降これを適用する。

普通株式につき株式の併合をする場合、次の算式により、取得価額を調整する。

$$\text{調整後取得価額} = \text{調整前取得価額} \times \frac{\text{合併前発行済普通株式数}}{\text{合併後発行済普通株式数}}$$

調整後取得価額は、株式の併合の効力が生ずる日以降これを適用する。

下記(d)に定める普通株式1株当たりの時価を下回る払込金額をもって普通株式を発行又は当社が保有する普通株式を処分する場合（株式無償割当ての場合、普通株式の交付と引換えに取得される株式若しくは新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。以下、本(4)において同じ。）の取得による場合、普通株式を目的とする新株予約権の行使による場合又は合併、株式交換若しくは会社分割により普通株式を交付する場合を除く。）、次の算式（以下、「取得価額調整式」という。）により取得価額を調整する。取得価額調整式における「1株当たり払込金額」は、金銭以外の財産を出資の目的とする場合には、当該財産の適正な評価額とする。調整後取得価額は、払込期日（払込期間を定めた場合には当該払込期間の最終日）の翌日以降、また株主への割当てに係る基準日を定めた場合は当該基準日（以下、「株主割当日」という。）の翌日以降これを適用する。なお、当社が保有する普通株式を処分する場合には、次の算式における「新たに発行する普通株式の数」は「処分前において当社が保有する普通株式の数」、「当社が保有する普通株式の数」は「処分前において当社が保有する普通株式の数」とそれぞれ読み替える。

$$\text{調整後取得価額} = \text{調整前取得価額} \times \frac{\begin{array}{l} \text{(発行済普通株式} \\ \text{数 - 当社が保有す} \\ \text{る普通株式の数)} \end{array} + \frac{\begin{array}{l} \text{新たに発行する} \\ \text{普通株式の数} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{1株当たり} \\ \text{払込金額} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{(発行済普通株式数 - 当社が保有する普通株式の数)} \\ \text{+ 新たに発行する普通株式の数} \end{array}}$$

当社に取得をさせることにより又は当社に取得されることにより、下記(d)に定める普通株式1株当たりの時価を下回る普通株式1株当たりの取得価額をもって普通株式の交付を受けることができる株式を発行又は処分する場合（株式無償割当ての場合を含む。）、かかる株式の払込期日（払込期間を定めた場合には当該払込期間の最終日。以下、本において同じ。）に、株式無償割当ての場合にはその効



力が生ずる日（株式無償割当てに係る基準日を定めた場合は当該基準日。以下、本において同じ。）に、また株主割当日がある場合はその日に、発行又は処分される株式の全てが当初の条件で取得され普通株式が交付されたものとみなし、取得価額調整式において「1株当たり払込金額」としてかかる価額を使用して計算される額を、調整後取得価額とする。調整後取得価額は、払込期日の翌日以降、株式無償割当ての場合にはその効力が生ずる日の翌日以降、また株主割当日がある場合にはその日の翌日以降、これを適用する。上記にかかわらず、取得に際して交付される普通株式の対価が上記の時点で確定していない場合は、調整後取得価額は、当該対価の確定時点において発行又は処分される株式の全てが当該対価の確定時点の条件で取得され普通株式が交付されたものとみなして算出するものとし、当該対価が確定した日の翌日以降これを適用する。

行使することにより又は当社に取得されることにより、普通株式1株当たりの新株予約権の払込価額と新株予約権の行使に際して出資される財産（金銭以外の財産を出資の目的とする場合には、当該財産の適正な評価額とする。以下、本において同じ。）の合計額が下記(d)に定める普通株式1株当たりの時価を下回る価額をもって普通株式の交付を受けることができる新株予約権を発行する場合（新株予約権無償割当ての場合を含む。）、かかる新株予約権の割当日に、新株予約権無償割当ての場合にはその効力が生ずる日（新株予約権無償割当てに係る基準日を定めた場合は当該基準日。以下、本において同じ。）に、また株主割当日がある場合はその日に、発行される新株予約権全てが当初の条件で行使され又は取得されて普通株式が交付されたものとみなし、取得価額調整式において「1株当たり払込金額」として普通株式1株当たりの新株予約権の払込価額と新株予約権の行使に際して出資される財産の普通株式1株当たりの価額の合計額を使用して計算される額を、調整後取得価額とする。調整後取得価額は、かかる新株予約権の割当日の翌日以降、新株予約権無償割当ての場合にはその効力が生ずる日の翌日以降、また株主割当日がある場合にはその翌日以降、これを適用する。上記にかかわらず、取得又は行使に際して交付される普通株式の対価が上記の時点で確定していない場合は、調整後取得価額は、当該対価の確定時点において発行される新株予約権全てが当該対価の確定時点の条件で行使され又は取得されて普通株式が交付されたものとみなして算出するものとし、当該対価が確定した日の翌日以降これを適用する。但し、本による取得価額の調整は、当社又は当社の子会社の取締役、監査役、執行役その他の役員又は従業員に対してストック・オプション目的で発行される普通株式を目的とする新株予約権には適用されないものとする。

- (b) 上記(a)に掲げた事由によるほか、下記乃至のいずれかに該当する場合には、当社はA種種類株主等に対して、あらかじめ書面によりその旨並びにその事由、調整後取得価額、適用の日及びその他必要な事項を通知したうえ、取得価額の調整を適切に行うものとする。

合併、株式交換、株式交換による他の株式会社の発行済株式の全部の取得、株式移転、吸収分割、吸収分割による他の会社とその事業に関して有する権利義務の全部若しくは一部の承継又は新設分割のために取得価額の調整を必要とするとき。

取得価額を調整すべき事由が2つ以上相接して発生し、一方の事由に基づく調整後の取得価額の算出に当たり使用すべき時価につき、他方の事由による影響を考慮する必要があるとき。

その他、発行済普通株式数（但し、当社が保有する普通株式の数を除く。）の変更又は変更の可能性を生ずる事由の発生によって取得価額の調整を必要とするとき。

- (c) 取得価額の調整に際して計算が必要な場合は、円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。
- (d) 取得価額調整式に使用する普通株式1株当たりの時価は、調整後取得価額を適用する日（但し、取得価額を調整すべき事由について株式会社東京証券取引所（以下、「東京証券取引所」という。）が提供する適時開示情報閲覧サービスにおいて公表された場合には、当該公表が行われた日）に先立つ連続する30取引日の東京証券取引所が発表する当社の普通株式の普通取引の売買高加重平均価格（以下、「VWAP」という。）の平均値（円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。以下同じ。）とする。なお、「取引日」とは、東京証券取引所において当社普通株式の普通取引が行われる日をいい、VWAPが発表されない日は含まないものとする。
- (e) 取得価額の調整に際し計算を行った結果、調整後取得価額と調整前取得価額との差額が0.1円未満にとどまるときは、取得価額の調整はこれを行わない。但し、本(e)により不要とされた調整は繰り越されて、その後の調整の計算において斟酌される。

(5) 普通株式対価取得請求受付場所

株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(6) 普通株式対価取得請求の効力発生

普通株式対価取得請求の効力は、普通株式対価取得請求に要する書類が上記(5)に記載する普通株式対価取得請求受付場所に到達したとき又は当該書類に記載された効力発生希望日のいずれか遅い時点に発生する。

(7) 普通株式の交付方法

当社は、普通株式対価取得請求の効力発生後、当該普通株式対価取得請求をしたA種種類株主に対して、当該A種種類株主が指定する株式会社証券保管振替機構又は口座管理機関における振替口座簿の保有欄に振替株式の増加の記録を行うことにより普通株式を交付する。

5. 金銭を対価とする取得条項

当社は、2018年4月1日以降いつでも、当社の取締役会が別に定める日（以下、「金銭対価償還日」という。）が到来することをもって、A種種類株主等に対して、金銭対価償還日の14日前までに書面による通知（撤回不能とする。）を行った上で、法令の許容する範囲内において、金銭を対価として、A種種類株式の全部又は一部（但し、一部の取得は、1,000株の整数倍の株数に限り、かつ、当該取得後におけるA種種類株主の保有するA種種類株式の合計数が4,000株以上となる場合に限る。）を取得することができる（以下、「金銭対価償還」という。）ものとし、当社は、当該金銭対価償還に係るA種種類株式を取得するのと引換えに、当該金銭対価償還に係るA種種類株式の数に、(i)A種種類株式1株当たりの払込金額相当額に下記に定める償還係数を乗じて得られる額並びに(ii)A種累積未払配当金相当額及び日割未払優先配当金額の合計額を乗じて得られる額の金銭を、A種種類株主に対して交付するものとする。なお、本5.においては、A種累積未払配当金相当額の計算及び日割未払優先配当金額の計算における「残余財産の分配が行われる日」及び「分配日」をそれぞれ「金銭対価償還日」と読み替えて、A種累積未払配当金相当額及び日割未払優先配当金額を計算する。また、金銭対価償還に係るA種種類株式の取得と引換えに交付する金銭に1円に満たない端数があるときは、これを切り捨てるものとする。

A種種類株式の一部を取得するときは、按分比例その他当社の取締役会が定める合理的な方法によって、A種種類株主から取得すべきA種種類株式を決定する。

「償還係数」とは、金銭対価償還日が以下の各号のいずれの期間に属するかの区分に応じて、以下の各号に定める数値をいう。

2018年4月1日から2018年6月30日まで	: 1.08
2018年7月1日から2019年6月30日まで	: 1.15
2019年7月1日から2020年6月30日まで	: 1.22
2020年7月1日から2021年6月30日まで	: 1.29
2021年7月1日から2022年6月30日まで	: 1.36
2022年7月1日以降	: 1.43

6. 譲渡制限

A種種類株式を譲渡により取得するには、当社の取締役会の承認を受けなければならない。

7. 自己株式の取得に際しての売主追加請求権の排除

当社が株主総会の決議によってA種種類株主との合意により当該A種種類株主の有するA種種類株式の全部又は一部を取得する旨を決定する場合には、会社法第160条第2項及び第3項の規定を適用しないものとする。

8. 株式の併合又は分割、募集株式の割当て等

- (1) 当社は、A種種類株式について株式の分割又は併合を行わない。
- (2) 当社は、A種種類株主には、募集株式の割当てを受ける権利又は募集新株予約権の割当てを受ける権利を与えない。
- (3) 当社は、A種種類株主には、株式無償割当て又は新株予約権無償割当てを行わない。

9. 優先順位

- (1) A種優先配当金、A種累積未払配当金相当額及び普通株式を有する株主又は普通株式の登録株式質権者（以下、「普通株主等」と総称する。）に対する剰余金の配当の支払順位は、A種累積未払配当金相当額が第1順位、A種優先配当金が第2順位、普通株主等に対する剰余金の配当が第3順位とする。
- (2) A種種類株式及び普通株式に係る残余財産の分配の支払順位は、A種種類株式に係る残余財産の分配を第1順位、普通株式に係る残余財産の分配を第2順位とする。
- (3) 当社が剰余金の配当又は残余財産の分配を行う額が、ある順位の剰余金の配当又は残余財産の分配を行うために必要な総額に満たない場合は、当該順位の剰余金の配当又は残余財産の分配を行うために必要な金額に応じた比例按分の方法により剰余金の配当又は残余財産の分配を行う。

10. 会社法第322条第2項に規定する定款の定めの有無

会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

11. 議決権を有しないこととしている理由

資本増強に当たり、既存の株主への影響を考慮したためです。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日 (注1)	4,600	91,181,599	3	116,750	2	45,072

(注) 1. 新株予約権の行使による増加です。

2. 2023年1月1日から2023年1月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が7,400株、資本金及び資本準備金がそれぞれ3百万円増加しています。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

(2022年12月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	A種種類株式 30,000	-	(1)[株式の総数等]に記載の通り
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 26,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 90,904,300	909,043	-
単元未満株式	普通株式 216,199	-	-
発行済株式総数	91,176,999	-	-
総株主の議決権	-	909,043	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の中には、証券保管振替機構名義株式が100株(議決権1個)含まれています。

【自己株式等】

(2022年12月31日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
日本板硝子(株)	東京都港区三田 三丁目5番27号	26,500	-	26,500	0.02
計		26,500	-	26,500	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しています。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けています。

1【要約四半期連結財務諸表】

(1)【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	(5)(e)	566,225	442,961
売上原価		440,527	342,516
売上総利益		125,698	100,445
その他の収益		1,498	1,392
販売費		48,234	39,108
管理費		50,212	44,549
その他の費用		4,595	3,656
個別開示項目前営業利益	(5)(e)	24,155	14,524
個別開示項目収益	(5)(f)	5,245	5,037
個別開示項目費用	(5)(f)	49,179	685
個別開示項目後営業利益(は損失)		19,779	18,876
金融収益	(5)(g)	4,079	1,419
金融費用	(5)(g)	15,392	10,443
持分法による投資利益		5,364	5,588
持分法投資に関するその他の損失		1,080	-
税引前四半期利益(は損失)		26,808	15,440
法人所得税	(5)(h)	8,001	4,918
四半期利益(は損失)		34,809	10,522
非支配持分に帰属する四半期利益		2,351	1,889
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (は損失)		37,160	8,633
		34,809	10,522
親会社の所有者に帰属する1株当たり 四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益 (は損失)(円)	(5)(i)	425.22	78.98
希薄化後1株当たり四半期利益 (は損失)(円)	(5)(i)	425.22	60.78

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
売上高	(5)(e)	190,574	152,274
売上原価		145,962	120,706
売上総利益		44,612	31,568
その他の収益		259	610
販売費		15,790	13,686
管理費		17,785	15,605
その他の費用		1,578	1,063
個別開示項目前営業利益	(5)(e)	9,718	1,824
個別開示項目収益	(5)(f)	1,197	56
個別開示項目費用	(5)(f)	182	230
個別開示項目後営業利益		10,733	1,650
金融収益	(5)(g)	1,166	376
金融費用	(5)(g)	5,920	3,556
持分法による投資利益		2,124	2,243
持分法投資に関するその他の損失		368	-
税引前四半期利益		7,735	713
法人所得税	(5)(h)	5,538	252
四半期利益		2,197	965
非支配持分に帰属する四半期利益		541	930
親会社の所有者に帰属する四半期利益		1,656	35
		2,197	965
親会社の所有者に帰属する1株当たり 四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益 (は損失)(円)	(5)(i)	12.81	5.04
希薄化後1株当たり四半期利益 (は損失)(円)	(5)(i)	11.65	5.04

【要約四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期利益(は損失)		34,809	10,522
その他の包括利益：			
純損益に振り替えられない項目			
確定給付制度の再測定 (法人所得税控除後)	(5)(p)	5,250	3,019
その他の包括利益を通じて公正価値を測定する 持分金融商品の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)		2,234	1,265
純損益に振り替えられない項目合計		3,016	4,284
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		5,709	7,290
その他の包括利益を通じて公正価値を測定する その他の金融資産の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)		1,558	237
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の 純変動(法人所得税控除後)	(5)(j)	7,609	10,310
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計		14,876	17,837
その他の包括利益合計 (法人所得税控除後)		11,860	22,121
四半期包括利益合計		46,669	32,643
非支配持分に帰属する四半期包括利益		2,924	1,028
親会社の所有者に帰属する四半期包括利益		43,745	31,615
		46,669	32,643



【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
四半期利益		2,197	965
その他の包括利益：			
純損益に振り替えられない項目			
確定給付制度の再測定 (法人所得税控除後)	(5)(p)	132	3,062
その他の包括利益を通じて公正価値を測定する 持分金融商品の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)		54	69
純損益に振り替えられない項目合計		186	3,131
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		21,974	7,362
その他の包括利益を通じて公正価値を測定する その他の金融資産の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)		18	218
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の 純変動(法人所得税控除後)	(5)(j)	27,049	1,596
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計		49,005	5,984
その他の包括利益合計 (法人所得税控除後)		49,191	9,115
四半期包括利益合計		46,994	10,080
非支配持分に帰属する四半期包括利益		3,336	944
親会社の所有者に帰属する四半期包括利益		43,658	9,136
		46,994	10,080

## ( 2 ) 【要約四半期連結貸借対照表】

( 単位：百万円 )

	当第3四半期連結会計期間末 (2022年12月31日)	前連結会計年度末 (2022年3月31日)
資産		
非流動資産		
のれん	72,503	104,737
無形資産	38,321	50,256
有形固定資産	362,772	341,736
投資不動産	132	163
持分法で会計処理される投資	28,614	20,410
退職給付に係る資産	32,611	32,349
契約資産	519	554
売上債権及びその他の債権	13,368	13,399
その他の包括利益を通じて 公正価値を測定する金融資産	19,366	23,022
デリバティブ金融資産	22,118	17,291
繰延税金資産	31,568	33,115
	<u>621,892</u>	<u>637,032</u>
流動資産		
棚卸資産	157,846	132,242
契約資産	2,827	1,270
売上債権及びその他の債権	89,719	76,082
デリバティブ金融資産	10,045	24,957
現金及び現金同等物	58,604	60,464
	<u>319,041</u>	<u>295,015</u>
売却目的で保有する資産	4,716	7,234
	<u>323,757</u>	<u>302,249</u>
資産合計	<u>945,649</u>	<u>939,281</u>

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (2022年12月31日)	前連結会計年度末 (2022年3月31日)
<b>負債及び資本</b>		
<b>流動負債</b>		
社債及び借入金	239,587	114,347
デリバティブ金融負債	1,912	1,501
仕入債務及びその他の債務	165,317	166,957
契約負債	12,871	7,132
引当金	12,875	13,621
繰延収益	502	499
	<u>433,064</u>	<u>304,057</u>
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	1,397	2,674
	<u>434,461</u>	<u>306,731</u>
<b>非流動負債</b>		
社債及び借入金	267,723	352,017
デリバティブ金融負債	1,033	20
仕入債務及びその他の債務	3,548	3,518
契約負債	10,248	5,347
繰延税金負債	17,907	22,608
退職給付に係る負債	48,268	55,459
引当金	20,713	21,196
繰延収益	2,927	3,030
	<u>372,367</u>	<u>463,195</u>
<b>負債合計</b>	<u>806,828</u>	<u>769,926</u>
<b>資本</b>		
<b>親会社の所有者に帰属する持分</b>		
資本金	116,750	116,709
資本剰余金	155,341	155,312
利益剰余金	83,963	60,121
利益剰余金 (IFRS移行時の累積換算差額)	68,048	68,048
その他の資本の構成要素	10,431	1,439
	<u>109,649</u>	<u>145,291</u>
親会社の所有者に帰属する持分合計	<u>109,649</u>	<u>145,291</u>
非支配持分	29,172	24,064
<b>資本合計</b>	<u>138,821</u>	<u>169,355</u>
<b>負債及び資本合計</b>	<u>945,649</u>	<u>939,281</u>

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

(単位：百万円)

	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	利益剰余 金（IFRS 移行時の 累積換算 差額）	その他の 資本の 構成要素	親会社の所 有者に帰属 する持分合 計	非支配 持分	資本合計
2022年4月1日残高	116,709	155,312	60,121	68,048	1,439	145,291	24,064	169,355
四半期包括利益合計			31,910		11,835	43,745	2,924	46,669
超インフレの調整			10,018			10,018	8,818	18,836
剰余金の配当			1,950			1,950	786	2,736
譲渡制限付株式報酬	24	12				36		36
新株予約権の増減	17	17			34	0		0
自己株式の取得					1	1		1
2022年12月31日残高	116,750	155,341	83,963	68,048	10,431	109,649	29,172	138,821

(単位：百万円)

	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	利益剰余 金（IFRS 移行時の 累積換算 差額）	その他の 資本の 構成要素	親会社の所 有者に帰属 する持分合 計	非支配 持分	資本合計
2021年4月1日残高	116,643	155,245	81,692	68,048	59,211	62,937	16,825	79,762
四半期包括利益合計			11,652		19,963	31,615	1,028	32,643
超インフレの調整			4,551			4,551	3,881	8,432
剰余金の配当			1,950			1,950	795	2,745
譲渡制限付株式報酬	25	13				38		38
新株予約権の増減	17	17			34	0		0
自己株式の取得					1	1		1
自己株式の処分		0			0	0		0
2021年12月31日残高	116,685	155,275	67,439	68,048	39,283	97,190	20,939	118,129

## (4)【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
営業活動による現金生成額	(5)(m)	21,001	30,061
利息の支払額		13,720	8,390
利息の受取額		6,468	2,763
法人所得税の支払額		5,407	3,294
営業活動によるキャッシュ・フロー		8,342	21,140
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
持分法適用会社からの配当金受領額		125	98
ジョイント・ベンチャー及び関連会社 の売却による収入		-	1
子会社の取得による支出(取得時に保 有する現金及び現金同等物控除後)		7	-
子会社の売却による収入(売却時に保 有する現金及び現金同等物控除後)		1,280	6,201
有形固定資産の取得による支出		28,423	25,987
有形固定資産の売却による収入		712	354
無形資産の取得による支出		689	848
無形資産の売却による収入		1	-
その他の包括利益を通じて公正価値を 測定する金融資産の取得による支出		28	1,783
その他の包括利益を通じて公正価値を 測定する金融資産の売却による収入		11	2
貸付金による支出		422	1,930
貸付金の返済による収入		252	3,806
投資活動によるキャッシュ・フロー		29,748	20,086
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
親会社の株主への配当金の支払額		1,955	1,959
非支配持分株主への配当金の支払額		786	795
社債償還及び借入金返済による支出		40,549	46,262
社債発行及び借入れによる収入		56,135	37,058
自己株式の取得による支出		1	1
その他		0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー		12,844	11,959
現金及び現金同等物の増減額		8,562	10,905
現金及び現金同等物の期首残高	(5)(n)	60,015	53,500
現金及び現金同等物に係る換算差額		38	1,169
超インフレの調整	(5)(q)	1,302	804
現金及び現金同等物の四半期末残高	(5)(n)	52,793	44,568

(5) 【要約四半期連結財務諸表注記】

(a) 報告企業

当社及び連結子会社（以下、当社グループ）は、建築用及び自動車用ガラスの生産・販売における世界的なリーディング・カンパニーであるとともに、様々なハイテク分野で活躍する高機能ガラス事業を展開しています。当社グループの親会社である日本板硝子株式会社は、日本に所在する企業であり、東京証券取引所にて株式を上場しています。当社の登記されている本社の住所は、東京都港区三田三丁目5番27号です。

(b) 作成の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、四半期連結財務諸表規則）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しています。

当社は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に定める要件を満たしており、同条に定める指定国際会計基準特定会社に該当します。

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、投資不動産、デリバティブ金融資産及び負債、その他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産、及びアルゼンチンの子会社における超インフレ会計の適用等を除き、取得原価を基礎として作成されています。

本要約四半期連結財務諸表は、2023年2月13日に当社取締役代表執行役社長兼CEO森 重樹及び当社最高財務責任者である執行役常務CFO楠瀬 玲子によって承認されています。

要約四半期連結財務諸表の表示通貨は日本円であり、特に注釈の無い限り、百万円単位での四捨五入により表示しています。

(c) 重要な会計方針

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度（2022年3月期）に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

(d) 重要な会計上の見積り、判断及び仮定

見積り及び判断は、継続的に評価され、過去の経験及び他の要因（状況により合理的であると認められる将来事象の発生見込みを含む）に基づいています。

当社グループは、将来に関する見積り及び仮定の設定をしています。会計上の見積りの結果は、その定義上、通常は関連する実際の結果と一致することはありません。第4四半期以降において資産や負債の帳簿価額に重要な修正を生じさせるような重要なリスクを伴う見積り及び仮定は以下の通りです。

以下に掲げるそれぞれの項目において、見積り及び仮定が予期せず変動する状況が生じた場合、連結貸借対照表で認識する資産と負債の金額に重要な影響を及ぼす可能性があります。

のれんや無形資産の回収可能性を評価する際は、当社グループで識別された資金生成単位（CGU）での使用価値と、各CGU内の資産の帳簿価額を比較します。使用価値は、各資金生成単位の将来営業キャッシュ・フローを適切な割引率で割り引いた現在価値として算定しています。割引率の選択は使用価値を算定する上で重要であり、債券及び株式市場の状況を前提にして算出しています。第2四半期のように割引率が上昇した場合には、のれん等の減損損失が発生する可能性が高まります。

将来の事業の状況やキャッシュ・フローを予測するにあたり、販売数量は重要な要素となります。また販売価格や投入コストも重要な要素です。2022年3月期を通して投入コストは上昇していましたが、年度末にはロシアによるウクライナ侵攻によって更に高騰し、2023年3月期中においてもこの状況が続いています。ヘッジ手法を用いて投入コストの価格変動を抑えていますが、特に長期間にわたった全てのコスト上昇を完全に抑えることはできません。当社グループは、販売価格を引き上げることにより、投入コスト上昇の影響を緩和できると見込んでいます。一般的に販売価格は取引条件と市場要因に基づいて決定されるため、どの程度緩和できるかは事業や地域によって異なります。

貸付を含むジョイント・ベンチャーへの長期的な投資の回収可能性は、関連する法的制約とともに、現在及び将来の事業環境に基づいています。将来の事業環境は、利用可能な将来の事業の状況に関する合理的な見積りを用いて予測されます。

## (e) セグメント情報

当社グループはグローバルに事業活動を行っており、以下の報告セグメントを有しています。

建築用ガラス事業は、建築材料市場向けの板ガラス製品及び内装外用加工ガラス製品を製造・販売しています。このセグメントには、太陽電池パネル用ガラス事業も含まれます。

自動車用ガラス事業は、新車組立用及び補修用市場向けに種々なガラス製品を製造・販売しています。

高機能ガラス事業は、ディスプレイのカバーガラスなどに用いられる薄板ガラス、プリンター向けレンズ及び光ガイドの製造・販売、エンジン用タイミングベルト部材などのガラス繊維製品の製造・販売など、いくつかの事業からなっています。

その他の区分は、本社費用、連結調整（ビルキントン社買収により生じたのれん及び無形資産にかかる償却及び減損に係る費用を含む）並びに上記報告セグメントに含まれない事業セグメントです。

また、外部顧客への売上高について欧州、アジア（日本を含む）、米州（北米・南米）に分解しています。

当社グループの売上高は、ガラス製品の売上高など一時点で認識するものと、サービスの売上高など一定期間にわたって認識するものから構成されています。

当第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結累計期間において、ビルキントン買収に係る償却費はそれぞれ500百万円と841百万円であり、「その他」のセグメント利益にそれぞれ含まれています。

当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
セグメント売上高計	296,148	259,034	31,748	3,762	590,692
セグメント間売上高	20,460	610	1,973	1,424	24,467
外部顧客への売上高	275,688	258,424	29,775	2,338	566,225
外部顧客への売上高 地域別区分への分解					
欧州	117,972	107,573	6,814	1,555	233,914
アジア	74,766	49,377	21,752	783	146,678
米州	82,950	101,474	1,209	-	185,633
個別開示項目前営業利益 （セグメント利益）（は損失）	26,192	1,117	7,233	8,153	24,155
個別開示項目収益	738	1,338	-	3,169	5,245
個別開示項目費用	127	202	8	48,842	49,179
個別開示項目後営業利益 （は損失）					19,779
金融費用（純額）					11,313
持分法による投資利益					5,364
持分法投資に関するその他の損失					1,080
税引前四半期利益（は損失）					26,808
法人所得税					8,001
四半期利益（は損失）					34,809

前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
セグメント売上高計	214,513	205,099	32,192	4,051	455,855
セグメント間売上高	7,650	1,804	1,419	2,021	12,894
外部顧客への売上高	206,863	203,295	30,773	2,030	442,961
外部顧客への売上高 地域別区分への分解					
欧州	84,236	86,382	5,872	1,301	177,791
アジア	64,717	44,397	23,969	729	133,812
米州	57,910	72,516	932	-	131,358
個別開示項目前営業利益 （セグメント利益）（は損失）	20,406	5,925	7,782	7,739	14,524
個別開示項目収益	106	460	4,410	61	5,037
個別開示項目費用	52	161	67	405	685
個別開示項目後営業利益 （は損失）					18,876
金融費用（純額）					9,024
持分法による投資利益					5,588
持分法投資に関するその他の損失					-
税引前四半期利益（は損失）					15,440
法人所得税					4,918
四半期利益（は損失）					10,522



当第3四半期連結会計期間（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
セグメント売上高計	100,441	86,768	9,679	1,179	198,067
セグメント間売上高	6,864	216	90	323	7,493
外部顧客への売上高	93,577	86,552	9,589	856	190,574
外部顧客への売上高 地域別区分への分解					
欧州	39,127	37,679	2,234	580	79,620
アジア	25,786	16,996	6,989	276	50,047
米州	28,664	31,877	366	-	60,907
個別開示項目前営業利益 （セグメント利益）（は損失）	10,697	577	1,544	3,100	9,718
個別開示項目収益	659	97	-	441	1,197
個別開示項目費用	60	58	1	65	182
個別開示項目後営業利益 （は損失）					10,733
金融費用（純額）					4,754
持分法による投資利益					2,124
持分法投資に関するその他の損失					368
税引前四半期利益（は損失）					7,735
法人所得税					5,538
四半期利益（は損失）					2,197

前第3四半期連結会計期間（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
セグメント売上高計	77,462	68,746	9,205	905	156,318
セグメント間売上高	2,618	672	111	643	4,044
外部顧客への売上高	74,844	68,074	9,094	262	152,274
外部顧客への売上高 地域別区分への分解					
欧州	29,346	27,303	1,989	2	58,640
アジア	24,452	16,413	6,805	260	47,930
米州	21,046	24,358	300	-	45,704
個別開示項目前営業利益 （セグメント利益）（は損失）	6,766	4,854	2,072	2,160	1,824
個別開示項目収益	76	4	32	8	56
個別開示項目費用	29	47	67	87	230
個別開示項目後営業利益 （は損失）					1,650
金融費用（純額）					3,180
持分法による投資利益					2,243
持分法投資に関するその他の損失					-
税引前四半期利益（は損失）					713
法人所得税					252
四半期利益（は損失）					965

当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）における報告セグメントのネット・トレーディング・アセットと資本的支出は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
ネット・トレーディング・アセット	206,063	193,484	32,245	3,918	435,710
資本的支出（無形資産含む）	13,689	10,333	1,035	1,275	26,332

前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）における報告セグメントのネット・トレーディング・アセットと資本的支出は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
ネット・トレーディング・アセット	161,301	170,649	28,020	4,260	364,230
資本的支出（無形資産含む）	6,432	7,710	646	469	15,257

ネット・トレーディング・アセットは、有形固定資産、投資不動産、無形資産（企業結合に係るものを除く）、棚卸資産、売上債権及びその他の債権（金融債権を除く）、仕入債務及びその他の債務（金融債務を除く）、契約資産及び契約負債によって構成されています。

資本的支出は有形固定資産（自社所有資産）及び無形資産の追加取得によるものです。

(f) 個別開示項目

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
個別開示項目(収益)：		
係争案件の解決による収益(注1)	2,839	-
子会社の売却による利益(注2)	1,501	-
非流動資産の売却による利益(注3)	603	-
リストラクチャリング引当金の戻入益 (注4)	241	194
有形固定資産の減損損失の戻入益(注5)	55	5
バッテリーセパレーター事業の譲渡による 利益(注6)	-	4,407
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に 係る政府支援による収益(注7)	-	404
その他	6	27
	5,245	5,037
個別開示項目(費用)：		
のれん及び無形資産の減損損失(注8)	48,776	-
リストラクチャリング費用 (雇用契約の終了に係る費用を含む) (注4)	152	118
係争案件の解決に係る費用(注1)	146	320
その他	105	247
	49,179	685
	43,934	4,352

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
個別開示項目(収益)：		
係争案件の解決による収益(注1)	16	-
子会社の売却による利益(注2)	354	-
非流動資産の売却による利益(注3)	603	-
リストラクチャリング引当金の戻入益 (注4)	241	85
有形固定資産の減損損失の戻入益(注5)	55	1
バッテリーセパレーター事業の譲渡による 利益(注6)	-	33
その他	72	3
	1,197	56
個別開示項目(費用)：		
リストラクチャリング費用 (雇用契約の終了に係る費用を含む) (注4)	60	38
係争案件の解決に係る費用(注1)	38	116
その他	84	76
	182	230
	1,015	174

(注1) 当第3四半期連結累計期間における係争案件の解決による収益は主に、2017年2月28日(現地時間)に米国イリノイ州で発生した竜巻による当社グループのオタワ工場の被災に関して、保険会社及びその仲介人と追加的な合意をしたことに関連するものです。この竜巻による保険適用について、保険会社及びその仲介人と協議の結果、200万米ドルの追加の金員を受け取ることに合意に至りました。

当第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結累計期間における係争案件の解決に係る費用は、過去の取引に起因した訴訟により発生したものです。

(注2) 子会社の売却益は、中国における自動車用ガラスの加工・販売会社であるGuilin Pilkington Safety Glass Co., Limited及びTianjin NSG Safety Glass Co., Limitedの売却に係るものです。両社は、当社グループが20%出資している持分法適用会社であるSYP Kangqiao Autoglass Co., Limitedに売却されました。この売却により得た資金はSYP Kangqiao Autoglass Co., Limitedへの追加出資に充当し、当社グループの持分比率は28.6%に増加します。この売却益の主な内容は、過去に連結包括利益計算書で認識した両社の為替換算差額の連結損益計算書へのリサイクリングによるものです。

(注3) 非流動資産の売却による利益は、欧州における建築用ガラス事業に関係するものです。

(注4) リストラクチャリング費用の多くは従業員の雇用契約の終了に伴う費用を含むものです。当第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結累計期間におけるリストラクチャリング引当金の戻入益は、過年度において計上した引当金に係るものです。

(注5) 当第3四半期連結累計期間における有形固定資産の減損損失の戻入益は、欧州における建築用ガラス事業に関係するものです。

前第3四半期連結累計期間における有形固定資産の減損損失の戻入益は、欧州及びアジアにおける建築用ガラス事業に関係するものです。

- (注6) 前第3四半期連結累計期間において、当社はバッテリーセパレーター事業の譲渡による利益を計上しました。当社は、2021年5月10日付けで、米国に本社を置くENTEK Technology Holdings LLCが日本国内に設立する子会社に、当該事業を譲渡する株式譲渡契約を締結し、2021年9月1日付けで譲渡が完了しました。
- (注7) 前第3四半期連結累計期間において、当社グループは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のまん延が続く中で、設備と労働力を維持するための様々な政府の補助金を受けました。これらの補助金は個別開示項目(収益)として計上しています。
- (注8) のれん及び無形資産の減損は、2006年のピルキントン社買収により生じた欧州の自動車用ガラス事業に係るのれん及び無形資産の残存価額全額を減損するものです。減損は、当該事業部門の使用価値と会計上の簿価を比較することにより算出しました。使用価値は、予測される将来キャッシュ・フローを、決算日時点の債券・株式市場に基づいて決定された適切な割引率で割り引くことによって算出しました。
- この減損は、第2四半期連結累計期間に主として割引率が上昇したことが大きく影響し、認識することになりました。2022年3月31日時点では、当社グループは当該事業の使用価値を6.92%の割引率で算出しています。2022年9月30日時点では、8.8%の割引率を使用しています。第2四半期連結累計期間において、インフレ率と金利の上昇の影響を大きく受けた結果、将来の経済環境の見通しが全般的に悪化しました。当社グループの減損テストにおいて使用した割引率の上昇は、このような要因の影響を直接受けています。

(g) 金融収益及び費用

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
<b>金融収益</b>		
利息収入	1,433	1,030
為替差益	252	64
超インフレの調整		
- 正味貨幣持高に係る利得	2,394	325
	4,079	1,419
<b>金融費用</b>		
社債及び借入金の支払利息	13,227	9,277
非支配持分に対する非持分金融商品で ある優先株式の支払配当金	211	197
為替差損	342	109
その他の支払利息等	1,554	574
	15,334	10,157
時間の経過により発生した割引の戻し	185	135
<b>退職給付費用</b>		
- 純利息費用	127	151
	15,392	10,443

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
<b>金融収益</b>		
利息収入	470	364
為替差益	54	32
超インフレの調整		
- 正味貨幣持高に係る利得	642	44
	1,166	376
<b>金融費用</b>		
社債及び借入金の支払利息	5,125	3,077
非支配持分に対する非持分金融商品で ある優先株式の支払配当金	71	66
為替差損	4	98
その他の支払利息等	693	216
	5,893	3,457
時間の経過により発生した割引の戻し	65	46
<b>退職給付費用</b>		
- 純利息費用	38	53
	5,920	3,556

## (h) 法人所得税

当第3四半期連結累計期間における法人所得税の負担率は、持分法による投資利益考慮前の税引前四半期損失に対して 24.9%となっています（前第3四半期連結累計期間は持分法による投資利益考慮前の税引前四半期利益に対して49.9%）。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税は、2023年3月31日時点の実効税率を合理的に見積り算定し、個別に重要な項目については適切に調整しています。

当第3四半期連結累計期間の税引前四半期損失には、ビルキントン社買収により生じたのれん及び無形資産にかかる減損損失48,776百万円が含まれています。この減損に伴い当第3四半期連結累計期間において、無形資産にかかる繰延税金負債の取崩を3,089百万円認識しました。この減損及び繰延税金負債取崩の影響を除くと、当第3四半期連結累計期間における法人所得税の負担率は、持分法による投資利益考慮前の税引前四半期利益に対して66.8%となります。



(i) 1株当たり利益

(i) 基本

基本的1株当たり利益は、親会社の所有者に帰属する四半期利益からA種種類株主へ支払われたA種種類株式の配当金を控除した金額を、当該四半期連結累計期間の発行済普通株式の加重平均株式数で除して算定しています。A種種類株式にかかる配当金は、発行要項で定められた配当率に基づき算定されます。発行済普通株式の加重平均株式数には、当社グループが買入れて自己株式として保有している普通株式及び株式報酬制度に基づき割当てられた譲渡制限付株式のうち譲渡制限解除の条件を満たしていないものは含まれません。

	当第3四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(は損失) (百万円)	37,160	8,633
調整:		
- A種種類株式の配当金(百万円)	1,469	1,469
基本的1株当たり四半期利益の算定に用いる利益(百万円)	38,629	7,164
発行済普通株式の加重平均株式数(千株)	90,844	90,708
基本的1株当たり四半期利益(は損失)(円)	425.22	78.98

	当第3四半期 連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期 連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(は損失) (百万円)	1,656	35
調整:		
- A種種類株式の配当金(百万円)	492	492
基本的1株当たり四半期利益の算定に用いる利益 (は損失)(百万円)	1,164	457
発行済普通株式の加重平均株式数(千株)	90,861	90,742
基本的1株当たり四半期利益(は損失)(円)	12.81	5.04

(ii) 希薄化後

希薄化後1株当たり利益は、全ての希薄化効果のある潜在的普通株式が転換されたと仮定して、当期利益と発行済普通株式の加重平均株式数を調整することにより算定しています。当社グループには、ストック・オプションの行使、株式報酬制度による譲渡制限付株式及びA種種類株式に付与された普通株式を対価とする取得請求権の行使による潜在的普通株式が存在します。ストック・オプションについては、付与された未行使のストック・オプションの権利行使価額に基づき、公正価値（当社株式の当期の平均株価によって算定）で取得される株式数を控除したうえで、オプションの行使によって発行される株式数を算定します。株式報酬制度による譲渡制限付株式については、譲渡制限期間の開始日以降、最初に到来する当社の定時株主総会の開催日までの期間で、公正価値（当社株式の当期の平均株価によって算定）が発行価格を上回る場合に、割当てられた譲渡制限付株式のうち報酬の対価となる役務が提供された相当分を潜在株式とします。A種種類株式については、A種種類株式の保有者にとって最も有利な条件での普通株式への転換を仮定して、発行される株式数を算定します。A種種類株式の普通株式への転換は、2022年7月1日以降に普通株式を対価とする取得請求権が行使される場合に適用される係数を使用したうえで、希薄化効果を有する場合には、希薄化後1株当たり利益の算定に含めています。

	当第3四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
利益：		
親会社の所有者に帰属する四半期利益（は損失） （百万円）	37,160	8,633
調整：		
- A種種類株式の配当金（百万円）	1,469	-
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いる利益 （は損失）（百万円）	38,629	8,633
普通株式の加重平均株式数		
発行済普通株式の加重平均株式数（千株）	90,844	90,708
調整：		
- スtock・オプション（千株）	-	607
- A種種類株式の転換の仮定（千株）	-	50,679
- 譲渡制限付株式（千株）	-	30
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いる 普通株式の加重平均株式数（千株）	90,844	142,024
希薄化後1株当たり四半期利益（は損失）（円）	425.22	60.78

（注）当第3四半期連結累計期間においては、ストック・オプション、A種種類株式の転換及び譲渡制限付株式が1株当たり四半期損失を減少させるため、潜在株式は希薄化効果を有していません。

	当第3四半期 連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期 連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
利益：		
親会社の所有者に帰属する四半期利益（は損失） （百万円）	1,656	35
調整：		
- A種類株式の配当金（百万円）	-	492
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いる利益 （は損失）（百万円）	1,656	457
普通株式の加重平均株式数		
発行済普通株式の加重平均株式数（千株）	90,861	90,742
調整：		
- ストック・オプション（千株）	507	-
- A種類株式の転換の仮定（千株）	50,679	-
- 譲渡制限付株式（千株）	76	-
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いる 普通株式の加重平均株式数（千株）	142,123	90,742
希薄化後1株当たり四半期利益（は損失）（円）	11.65	5.04

（注）前第3四半期連結会計期間においては、ストック・オプション、A種類株式の転換及び譲渡制限付株式が1株当たり四半期損失を減少させるため、潜在株式は希薄化効果を有していません。

(j) キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動

連結包括利益計算書に表示されるキャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動は、当第3四半期末において満期を迎えていないデリバティブ取引の未実現利益から、連結損益計算書に組替えられた実現利益を控除したのになります。

キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動額 7,609百万円の内訳は、変動額総額の 12,763百万円と繰延法人所得税5,154百万円となります。

変動額総額 12,763百万円の内訳は、満期を迎えたデリバティブ取引の連結損益計算書への組替調整額 21,403百万円と、満期を迎えていないデリバティブ取引の公正価値増加額8,640百万円となります。

(k) 配当金

(i) 普通株式に係る配当金支払額

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
期末配当金		
配当金の総額(百万円)	-	-
1株当たりの配当額(円)	-	-

(ii) A種種類株式に係る配当金支払額

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
期末配当金		
配当金の総額(百万円)	1,950	1,950
1株当たりの配当額(円)	65,000	65,000

(l) 為替レート

主要な通貨の為替レートは以下の通りです。

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)		前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)		前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	
	平均レート	期末日レート	平均レート	期末日レート	平均レート	期末日レート
英ポンド	164	160	153	160	153	156
米ドル	137	132	112	122	112	116
ユーロ	140	140	130	136	131	131
アルゼンチン・ペソ	-	0.76	-	1.10	-	1.12

(m) 営業活動によるキャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期利益(は損失)	34,809	10,522
調整項目：		
法人所得税	8,001	4,918
減価償却費(有形固定資産)	28,296	25,536
償却費(無形資産)	1,921	2,180
減損損失	50,353	342
減損損失の戻入益	55	26
有形固定資産売却損益	571	7
子会社、ジョイント・ベンチャー、関連会社 及び事業の売却損益	1,483	4,407
繰延収益の増減	219	126
金融収益	4,079	1,419
金融費用	15,392	10,443
持分法による投資損益(は利益)	5,364	5,588
持分法投資に関するその他の損益	1,080	-
その他	1,089	140
引当金及び運転資本の増減考慮前の営業活動による キャッシュ・フロー	57,374	42,242
引当金及び退職給付に係る負債の増減	3,806	3,483
運転資本の増減：		
- 棚卸資産の増減	24,788	11,772
- 売上債権及びその他の債権の増減	13,034	2,688
- 仕入債務及びその他の債務の増減	3,767	5,549
- 契約残高の増減	9,022	213
運転資本の増減	32,567	8,698
営業活動による現金生成額	21,001	30,061

(n) 現金及び現金同等物

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
現金及び現金同等物	60,464	58,673
銀行当座借越	449	5,173
現金及び現金同等物の期首残高	60,015	53,500
現金及び現金同等物	58,604	53,684
銀行当座借越	5,811	9,116
現金及び現金同等物の四半期末残高	52,793	44,568

(o) 公正価値測定

**経常的に公正価値で測定される資産及び負債に関する公正価値ヒエラルキー**

レベル1：同一の金融資産及び負債について、活発な市場における（未調整の）市場価格があれば、当該市場価格

レベル2：直接的又は間接的に観察可能な、レベル1に含まれる市場価格以外のインプット

レベル3：市場価格に基づかない、観察不能なインプット

当第3四半期連結会計期間末（2022年12月31日）

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資不動産				
賃貸不動産	-	-	132	132
	-	-	132	132
その他の包括利益を通じて 公正価値を測定する金融資産				
英国国債	5,174	-	-	5,174
上場株式	10,246	-	-	10,246
非上場株式	-	-	3,577	3,577
その他の債券	317	-	-	317
その他	-	-	52	52
	15,737	-	3,629	19,366
デリバティブ金融資産				
金利スワップ	-	3,258	-	3,258
為替予約	-	807	-	807
商品スワップ	-	28,099	-	28,099
	-	32,164	-	32,164
デリバティブ金融負債				
金利スワップ	-	174	-	174
為替予約	-	1,064	-	1,064
商品スワップ	-	1,707	-	1,707
	-	2,945	-	2,945

前連結会計年度末（2022年3月31日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資不動産				
賃貸不動産	-	-	163	163
	-	-	163	163
その他の包括利益を通じて 公正価値を測定する金融資産				
英国国債	6,694	-	-	6,694
上場株式	12,400	-	-	12,400
非上場株式	-	-	3,572	3,572
その他の債券	306	-	-	306
その他	-	-	50	50
	19,400	-	3,622	23,022
デリバティブ金融資産				
金利スワップ	-	645	-	645
為替予約	-	267	-	267
商品スワップ	-	41,336	-	41,336
	-	42,248	-	42,248
デリバティブ金融負債				
金利スワップ	-	96	-	96
為替予約	-	1,252	-	1,252
商品スワップ	-	173	-	173
	-	1,521	-	1,521

当第3四半期連結累計期間において、公正価値ヒエラルキーのレベル間の資産または負債の振替はありません。

レベル2の金融資産及び金融負債は、デリバティブ金融資産及びデリバティブ金融負債です。デリバティブ金融資産及び金融負債の公正価値は、取引先金融機関等から提示された価格や期末日現在の市場価格に基づき算定しています。なお、当第3四半期末のデリバティブ金融資産のうち、商品スワップの公正価値は28,099百万円となり、当会計期間に満期を迎えたデリバティブ金融資産があったため、前年度末の41,336百万円から大きく減少しました。当第3四半期末における満期を迎えていないデリバティブ金融資産の公正価値には、燃料価格が取引開始日の価格を依然として上回るため評価益が含まれますが、当第3四半期連結会計期間の燃料価格相場下落により、当第3四半期連結会計期間において未実現の評価益は減少しました。要約四半期連結包括利益計算に計上された評価益については、(5)要約四半期連結財務諸表注記(j)キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動に記載の通りです。

レベル3の資産は、主として投資不動産及び非上場株式です。投資不動産は、将来の予想賃貸料収益に基づく評価又は直近に入手した外部専門家による鑑定評価を参照して公正価値を算定しています。非上場株式は、売買目的以外のものであり、純資産価額や将来予想キャッシュ・フロー等を使用した評価技法を用いて公正価値を算定しています。レベル3の資産の公正価値は、様々な要因により変動します。投資不動産の公正価値に影響を与える主要な要因は、投資不動産が所在する市場における賃貸料相場や不動産価格の変動です。非上場株式の公正価値に影響を与える主要な要因は、これらが主として日本の事業会社によって発行された株式であるため、日本経済に関する成長予測です。

公正価値ヒエラルキーにおいてレベル3に区分されたその他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産の調整表は、以下の通りです。

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
4月1日現在	3,622	2,858
取得	-	700
処分	1	0
連結包括利益計算書で認識された評価損益	2	3
為替換算差額	6	4
12月31日現在	3,629	3,559

### 社債及び借入金の公正価値

当社グループの非流動の社債及び借入金の帳簿価額と公正価値は、以下の通りです。

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (2022年12月31日)		前連結会計年度末 (2022年3月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
銀行借入金	236,142	215,880	320,764	301,014
社債及びその他の借入金	303	270	296	268
非支配持分に対する非持分金融商品である優先株式	5,258	5,258	4,881	4,881
非流動の社債及び借入金 (リース負債を除く)	241,703	221,408	325,941	306,163
リース負債	26,020	-	26,076	-
非流動の社債及び借入金	267,723	-	352,017	-

当社グループでは、上の表に記載されたもの以外の資産及び負債の公正価値は、連結貸借対照表の帳簿価額に近似すると考えています。



## (p) 退職給付債務

当社グループは、第1四半期における債券価格の変動とそれに伴う割引率の変動を受け、第1四半期連結会計期間末時点の当社グループの退職給付に係る負債について再評価しました。当連結会計年度期首で用いられている仮定に適切な変更を加えて再評価を実施し、制度資産についても再評価しました。この再評価により、退職給付に係る負債の純額は9,888百万円減少し、法人所得税控除後では7,254百万円の減少となりました。この再評価による変動はその他の包括利益で認識しています。なお当第3四半期連結会計期間末では再評価は実施せず、第1四半期連結会計期間末での再評価結果を保持しています。

この再評価における主要な仮定の変更は以下の表の通りです。

	第1四半期 連結会計期間末 (2022年6月30日) (%)	前連結会計年度末 (2022年3月31日) (%)
割引率 - 英国	3.8	2.8
インフレ率 - 英国	2.5	3.0
割引率 - ユーロ圏	3.2	1.7
割引率 - 米国	4.4	3.4

また、第2四半期において、当社グループの英国所在の主要な年金制度において、対象となる年金受給者に対する年金給付に関して、Buy-in(バイ・イン)を実施しました。当社グループは、当該年金制度について対象となる年金受給者への年金給付を保証するための契約を結んでいます。バイ・インの実施は、退職給付債務に対するリスクの軽減に関する当社グループの長期的な方針と一致しています。バイ・インの実施により、当第3四半期連結累計期間の連結包括利益計算書において、1,630百万円(法人所得税控除後)の損失を計上しています。

## (q) 超インフレの調整

2019年3月期 第2四半期において、アルゼンチンの全国卸売物価指数が、同国の3年間累積インフレ率が100%を超えたことを示したため、当社グループはアルゼンチン・ペソを機能通貨とするアルゼンチンの子会社について、超インフレ経済下で営業活動を行っているとは判断しました。このため当社グループは、アルゼンチンにおける子会社の財務諸表について、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」に定められる要件に従い、会計上の調整を加えています。

IAS第29号は、アルゼンチンの子会社の財務諸表について、報告期間の末日現在の測定単位に修正した上で、当社グループの連結財務諸表に含めることを要求しています。

当社グループは、アルゼンチンにおける子会社の財務諸表の修正のため、Instituto Nacional de Estadística y Censos de la República Argentina (INDEC) が公表するアルゼンチンの全国卸売物価指数 (IPIM) から算出する変換係数を用いています。2006年6月以降のIPIMとそれに対応する変換係数は以下の通りです。

貸借対照表日	全国卸売物価指数(IPIM) (2006年6月30日 = 100)	変換係数
2006年6月30日	100.0	54.381
2007年3月31日	103.9	52.358
2008年3月31日	120.2	45.239
2009年3月31日	128.7	42.253
2010年3月31日	146.5	37.121
2011年3月31日	165.5	32.861
2012年3月31日	186.7	29.124
2013年3月31日	211.1	25.756
2014年3月31日	265.6	20.477
2015年3月31日	305.7	17.786
2016年3月31日	390.6	13.922
2017年3月31日	467.2	11.639
2018年3月31日	596.1	9.123
2019年3月31日	970.9	5.601
2020年3月31日	1,440.8	3.774
2021年3月31日	2,046.4	2.657
2022年3月31日	3,162.1	1.720
2022年4月30日	3,408.0	1.596
2022年5月31日	3,580.1	1.519
2022年6月30日	3,769.6	1.443
2022年7月31日	4,048.8	1.343
2022年8月31日	4,331.0	1.256
2022年9月30日	4,598.1	1.183
2022年10月31日	4,889.9	1.112
2022年11月30日	5,130.3	1.060
2022年12月31日	5,438.1	1.000

アルゼンチンにおける子会社は、取得原価で表示されている有形固定資産等の非貨幣性項目について、取得日を基準に変換係数を用いて修正しています。現在原価で表示されている貨幣性項目及び非貨幣性項目については、報告期間の末日現在の測定単位で表示されていると考えられるため、修正していません。正味貨幣持高にかかるインフレの影響は、損益計算書の金融収益または金融費用に表示しています。

また、アルゼンチンにおける子会社の当第3四半期連結累計期間の損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書は、上記の表に記載の変換係数を適用して修正しています。

アルゼンチンにおける子会社の財務諸表は、期末日の為替レートで換算し、当社グループの連結財務諸表に反映しています。比較連結財務諸表は、IAS第21号「外国為替レート変動の影響」42項(b)に従い修正再表示していません。

(r) 重要な後発事象

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月13日

日本板硝子株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮川 朋弘

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 馬野 隆一郎

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 狹間 智博

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本板硝子株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結貸借対照表、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、日本板硝子株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 要約四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しています。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。